山形県

国宝土偶講演会＆山形県発掘調査速報会２０１９

日時：令和２年３月８日（日）
13:00～16:15（開場 12:00）
会場：山形県生涯学習センター　遊学館
２階ギャラリー・ホール

【主催】山形県教育委員会
【共催】公益財団法人山形県埋蔵文化財センター

国宝土偶講演会＆山形県発掘調査速報会2019

主催 山形県教育委員会
共催 公益財団法人山形県埋蔵文化財センター
日時 令和2年3月8日（日）13:00～
会場 山形県生涯学習センター『遊学館　2階ホール・ギャラリー』

次第

12:00　開　場
13:00　開会の挨拶
13:05　講演会『中部高地の土偶文化と国宝土偶』
（長野県立歴史館　学芸部総合情報課長　寺内隆夫氏）
14:05　質疑応答

14:15　休憩　（出土品の展示・解説）

14:35　令和元年度の県内の発掘調査の概要について
（山形県教育庁文化財・生涯学習課）
14:50　報告①　山形城三の丸跡
（山形県埋蔵文化財センター）
15:10　報告②　谷地城跡
（山形県埋蔵文化財センター）
15:30　報告③　中関屋遺跡
（山形県埋蔵文化財センター）
15:50　報告④　上曽根遺跡
（山形県埋蔵文化財センター）

16:15　閉　会

令和元年度　報告遺跡一覧

遺 跡 名	調査次数	所在地	種別	時代	調査面積	調査日程	起因事業
山形城三の丸跡 ●	第21次	山形市	城館跡	近世・近代	100㎡	5月8日～6月28日	一般国道112号霞城改良事業
谷地城跡（やちじょうあと） ●		河北町	城館跡	平安～近世	2,200㎡	5月7日～8月16日	河北町役場新庁舎建設
中関屋遺跡（なかせきや） ●		新庄市	集落跡	平安時代	1,840㎡	6月17日～8月27日	山形県立新庄病院改築整備事業
上曽根遺跡（かみそね） ●	第3次	酒田市	集落跡	奈良・平安～近世	5,400㎡	6月4日～12月6日	一般国道344号道路改良事業（安田バイパス）
史跡山形城跡 ●		山形市	近世城郭	中世～近世	本丸1,000㎡ 二ノ丸400㎡	本丸7月3日～12月27日 二ノ丸5月9日～11月18日	史跡山形城跡整備事業
史跡慈恩寺（じおんじ）旧境内関連遺跡（上の寺（かみてら）遺跡） ●	第12次	寒河江市	寺院跡	中世	45㎡	10月15日～10月31日	保存目的の範囲確認調査
史跡左沢楯山城跡（あてらざわたてやまじょう） ●		大江町	城館跡	中世・近世	220㎡	4月15日～6月6日	史跡左沢楯山城跡整備
長岡南森遺跡（ながおかみなみもり） ●	第2次	南陽市	古墳ほか	縄文～中世	398㎡	5月7日～7月30日	保存目的の範囲確認調査
日向洞窟遺跡（ひなたどうくつ） ●	第3次	高畠町	集落跡	縄文時代	18㎡	6月24日～8月26日	保存目的の範囲確認調査
天童古城跡（てんどうこじょうあと） ●	第3次	天童市	城館跡	南北朝～安土桃山期	118㎡	10月1日～11月1日	保存目的の内容確認調査
駒籠楯跡（こまごめたて） ●	第15次	大石田町	集落跡 官衙跡 城館跡	縄文 古代 中・近世	430㎡	10月1日～10月25日	保存目的の範囲確認調査
桐ノ木（きりのき）遺跡 ●	第1・2次	米沢市	古墳 集落跡	古墳・中世	1次1,700㎡ 2次420㎡	1次4月8日～6月28日 2次8月19日～9月27日	米沢市窪田防災センター整備事業　1次 市道窪田小東回り線道路改良事業　2次

表紙写真　上段左から　山梨県鋳物師屋遺跡出土「子宝の女神ラビィ」、長野県棚畑遺跡出土「縄文のビーナス」、西ノ前遺跡出土「縄文の女神」
中段左から　上曽根遺跡全景、中関屋遺跡調査風景、山形城三の丸跡石組水場遺構
下段左から　山形城三の丸跡石組水場遺構、谷地城跡調査区全景

やまがたじょうさんのまるあと
山形城三の丸跡第 21 次 ―町に眠る近世から近代の人々の暮らし―

山　形　市

山形城三の丸跡第 21 次では、国道 112 号の改良工事に伴う発掘調査を行いました。国道 112 号の改良工事に伴う発掘調査は、2011 年に開始され、８年目の調査となりました。今回はＰ６区の調査を実施しました。また、今回の調査をもって国道 112 号の霞城改良工事に伴う調査は終了となります。

調査区は山形市大手町に所在し、2017 年に調査が行われたＰ５区の西隣にあたります。遺構は、地表面から１ｍほど掘り下げた面で検出しており、18 世紀後半から 19 世紀にかけての比較的新しい遺構や遺物が見つかりました。

主な遺構としては、調査区の南側で水路や水場跡と考えられる石組の遺構が見つかりました。調査区の大部分が河川からの流れ込みの川原石で覆われており、そうした石を配置し、中を掘り込んで石組の施設が作られていました。また、調査区の中央部では、近代からの撹乱を受けていました。

遺物は石組水場遺構に集中しており、遺構内からは 18 世紀後半から 19 世紀にかけての磁器などが出土しています。内訳は、碗が９点、皿、すり鉢、砥石がそれぞれ１点ずつ出土しました。磁器は主に肥前（現在の佐賀県）で焼かれたものであり、中には完形に近い状態のものも含まれていました。また、北側の遺構とその周辺からは、かわらけが２点出土しています。

Ｐ６区全体（西側より撮影）。

今年度の調査では、遺構･遺物ともに近世･近代のものが中心となりましたが、2011 年から始まった山形城三の丸跡の全体をみると、江戸時代に武家屋敷が形成される以前から古代において人々の生活が確認され、近代の山形市の都市形成につながっていったと考えられます。　（色摩優吾）

石組水場遺構（Ｐ６区南側）。遺構内からは 18 世紀後半から 19 世紀の肥前磁器が出土しました。

水場跡から出土した肥前の磁器。砥石も同じ遺構から出土しました。

谷地城跡（やちじょうあと）

－白鳥十郎長久（しろとりじゅうろうながひさ）の城－

河　北　町

谷地城は、最上義光に謀殺されたといわれている白鳥十郎長久の居城になります。今まで文字資料を使用した多くの検討がなされていましたが発掘調査は今回が初めてになります。発掘調査の前段階で絵図面を検討したところ、調査区は二の丸の堀跡にかかることが予想されました。

調査の結果、当初想定していた二の丸の堀跡と見られる遺構は確認できませんでした。検出された遺構は東西に伸びる溝状遺構とそれを繋ぐように配置された南北に伸びる溝状遺構、そしてその間に掘られたピット群になります。ピット群の中には底面に枝材を何本も敷いたもの、また、根石として丸い礫を敷いたものがみられました。いずれも柱を立てるために掘られた穴と考えられます。地盤が軟弱（なんじゃく）なため、柱が沈み込まないようにした当時の人々の知恵であると考えられます。溝状遺構は区画のための施設と考えられます。

遺物は縄文時代後晩期の土器や奈良・平安時代に属する土師器（はじき）・須恵器（すえき）なども出土しています。しかし、中心となるものは中世に属するものになります。どういったものが出土したかというと、陶磁器では白磁や青磁、青花（せいか）といった輸入磁器、今の愛知県や岐阜県、佐賀県で焼かれた陶器などです。また、木製品では木簡や漆器といったものが出土しており、他に石塔や砥石、茶臼などの石製品や古銭などの金属製品も出土しています。

これら遺構の新旧や遺物の年代から調査区内で５期の変遷が想定されました。１期は平安時代になります。２期は 15 世紀中頃から 16 世紀中頃で、この時期に調査区とその周辺の開発が進んだとみられます。３期は 16 世紀中頃から 17 世紀前半で谷地城廃城までの期間にあたり、この時期に谷地城に関わる最上氏や上杉氏との攻防が行われます。そして最後の５期は 19 世紀以降にあたります。

今回の調査により二の丸堀跡の位置を含めた谷地城の全体像を再考する必要が出てきました。

（渡辺和行）

東西南北に規則性のある溝状遺構が位置し、ピット群が調査区全面に広がる（上が東）。

枝を敷いた柱穴（手前）と柱痕から出土した陶器

根石を敷いた柱穴から出土した木簡

中関屋遺跡（なかせきや）　－溝で囲われた平安時代の村－

新　庄　市

中関屋遺跡は、升形川の支流である中の川の左岸に立地する平安時代の集落跡です。当遺跡は県立新庄病院改築整備事業に伴い、平成 30 年に試掘調査を行った結果、新たに発見された遺跡です。

調査区は、先行して調査を開始した地区を１区とし、ボーリング調査にかかるため７月から着手した地区を２区としました。

遺構は掘立柱建物跡（ほったてばしらたてものあと）３棟、柱穴（ちゅうけつ）、土坑（どこう）、溝跡（みぞあと）が確認されました。SB ８掘立柱建物跡は２×２間の総柱と推定されます。溝跡に切られていることから、SB ８が建てられた後に溝で囲まれた新しい集落ができたと考えられます。SB23 の規模は、南北３間・東西２間です。東側に柱穴群がみられることから、建て替えられたか、別の建物がある可能性があります。SB42 は現代の撹乱で切られており、２×２間以上の建物と推定されます。

主な出土遺物は須恵器（すえき）、土師器（はじき）で、９世紀第２四半期から第３四半期頃のものと思われます。その他に、SK22 からは銭貨（せんか）などが出土しました。また、SB42EP47 柱穴底の下の層からは縄文土器が出土し、溝跡からは剝片（はくへん）と石皿が出土しました。縄文土器は前期初めの時期で、石器はこの時期に伴うものと推定されます。捨て場と思われる SK20・21 からは須恵器・土師器片などが出土し、覆土は焼土を多く含んでいます。SK20 からは転用硯（てんようけん）と思われる須恵器の蓋（ふた）も出土しました。SP41 からはほぼ完形の土師器の坏（つき）が出土しており、柱を抜いた後に意図的に入れられた可能性があります。

今回の調査では掘立柱建物跡を中心とした平安時代の集落跡が明らかになりました。調査区は集落の北西部隅と思われ、集落の中心地は、より南や東側に存在していたと考えられます。また、文字を扱い、貨幣を使用していた人の存在もうかがわれます。（廣瀬美紀）

溝跡が集落を囲むようにめぐっている。（上が北）

SB42 掘立柱建物跡と土坑群

復元した平安時代の須恵器・土師器

上曽根遺跡（かみそね）　ー平安時代出羽国府の祈りの村ー

酒　田　市

上曽根遺跡は酒田市上野曽根地区に所在しています。遺跡の北東 2.5㎞には、国指定史跡「城輪柵跡（きのわのさくあと）」があり、この「城輪柵跡」周辺では多数の遺跡が確認されております。代表的なものとして、東側には筏（いかだ）地業の「堂ノ前遺跡」や礎石建物跡や八脚門が見つかった「八森遺跡」、南側には人面墨描土器（じんめんぼくびょうどき）や斎串（いぐし）等の祭祀（さいし）の遺物が見つかった俵田（たわらだ）遺跡などが立地しています。

上曽根遺跡は 1986 年と 1988 年の２回の調査が行われ、今回の調査は３回目となります。1980 年代の第１・２次調査では掘立柱（ほったてばしら）建物跡５棟、井戸跡６基、土坑 34 基、溝跡 15 条、小穴・柱穴 231 基、塚３基が確認されています。これらの大半は９世紀の平安時代前半の遺構ですが、中世の井戸跡や土坑、近世の溝跡も発見されています。中でも中世の土坑から出土した砥石には、人面線刻画が描かれており注目されました。また、塚３基は出土した遺物がなく時代の特定はできませんでしたが、平安時代の遺構の上に造られていたことから中世以降と見られます。

今回の調査で発見された遺構は、掘立柱建物跡・柱列・井戸跡・土坑・柱穴・溝跡です。その中からは奈良時代～平安時代の土器や木製品が多数出土しています。特に SE123 井戸跡からは同じ形の斎串と呼ばれる祭祀（まじない）に使われる木製品が多数発見されました。出土しているほぼ全ての斎串が同じ形状ということは希少で特筆されることであります。調査区の南側では、近世の溝跡が４条見つかっています。南北方向に延びる溝は近世以降、北東から南西方向に延びる溝は戦国時代から近世江戸時代と見られます。

出土した遺物は主に土師器（はじき）・須恵器（すえき）・木製品・近世陶磁器・古銭があり、土器に墨で文字を書いた「墨書土器（ぼくしょどき）」も多数出土しています。木製品は、斎串・箸・横櫛・曲物底板・井戸枠材などが出土しています。

このような斎串を使った集落のあり方は山形県内の平安時代の祭祀のあり方を考える上で貴重な資料となりそうです。　（齊藤主税）

SE123 井戸跡斎串出土状況（南から）

調査区全景（上が北）

史跡山形城跡

－時代の変遷をうかがう二つの堀跡－

山　形　市

【本丸】

本丸北不明門跡（きたあかずもんあと）周辺の位置を確認する目的で発掘調査を実施しました。当該地は旧山形市営球場跡地で、平成６年に西側駐車場跡を試掘し堀跡の位置をおおよそ把握しておりましたが、今年度の調査では土橋跡の一部と北不明門東側櫓台石垣及び土塁跡が検出されました。本丸に通じる橋で唯一の土橋で、調査により東岸に玉石の石垣が発見されました。櫓台石垣の根石は安山岩（あんざんがん）玉石及び流紋岩（りゅうもんがん）角礫が混在していました。さらに、その斜面下には２～３段の土留め石積みが見つかり、これまでも確認されてきた最上氏時代の石積遺構の可能性があります。現地表下約４ｍからは堀底堆積土が確認され、木製部材・瓦・漆器椀・陶磁器などが見つかりました。また、堀の上層には大量の石垣石材と裏込め玉石が混入しており、明治時代に本丸を破壊した際に廃棄した姿と捉えています。取り上げた石材は２００個以上ありますが、流紋岩を素材とする石垣石材の割合が高いことが特徴です。本丸北不明門の石垣の様相は、他の城門とは少し趣が異なっていた可能性がうかがえます。

【二ノ丸】

山形城の二ノ丸西側の地区（旧ソフトボール場）に対して、公園整備の計画に基づき事前の発掘調査を実施しました。調査にあたって３本のトレンチを設定しましたが、３本すべてで、幅約 11 ｍ、深さ約３ｍ、検出された長さ約 40 ｍの南北に走る堀がみつかりました。堀底から約 50㎝の範囲は、粘土質でグレーの土が堆積していました。これは、水の影響により堆積した土層であるので、この堀には水が湛（たた）えられていたと考えられます。出土した遺物は非常に少なく、瓦の小破片のみでしたが、16 世紀末から 17 世紀初頭の年代を示すものでした。

江戸時代初めの最上氏時代の城絵図には、本丸堀の北西角から二ノ丸堀の西門付近に接続する堀と土塁が描かれています。今年度検出された堀は、最上氏時代の城絵図に描かれている場所とほぼ同じ位置から見つかりましたので、年代を示す遺物などはありませんが、この堀と一致すると考えられます。最上氏時代の城絵図は、正確に描かれていることが判明する貴重な発見です。　（五十嵐貴久・齋藤仁）

北不明門（きたあかずもん）土橋石垣

検出された近世最上時代の堀

史跡慈恩寺旧境内関連遺跡（上の寺遺跡）

－慈恩寺の中世の姿－

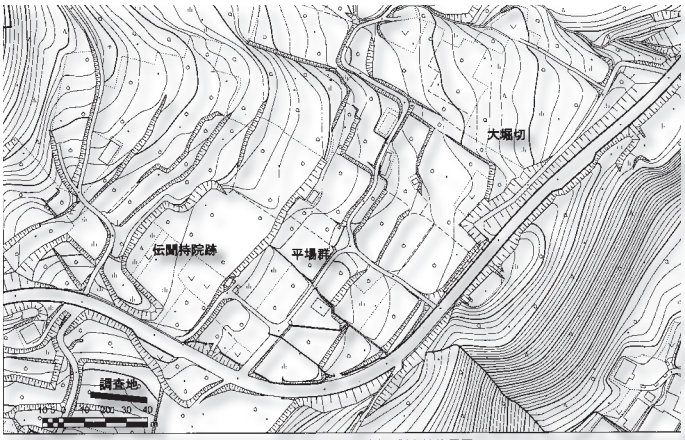
寒河江市

上の寺遺跡は、慈恩寺に中世期存在した寺院群の跡です。慈恩寺本堂の 500 ～ 600m 東に聞持院跡と伝えられる平場が残り、そこから北東に向かって階段状の平場群が広がります。中世期の慈恩寺を明らかにするため調査を継続し、今回で第 12 次となります。

上の寺遺跡は、西にゴロビツ楯を背負い、北側を前山楯・矢呑み沢・大堀切が遮断し、南は伝・聞持院跡の土塁から下方に平場が 6 段あり、最下段に天台最上院末の大乗坊屋敷があります。ここから西に折れると慈恩寺本堂に向かう鬼越の切通坂になります。東は段丘下に日和田集落が展開していますが、上の寺遺跡との比高は 40 mを超えます。また、上の寺遺跡方面から張り出した舌状尾根を大堀切で遮断して日和田楯が構築されています。遺跡は東に開けていますが、遺跡に至る正面参道は不明でした。

今次の調査は、この正面参道を求めて南側の平場群を調査したものです。３段目の平場に東西 30 m、幅 1.5 mのトレンチを設定し、地山まで掘り下げた結果、表土下 40 ～ 60㎝に地山の黄褐色土を掘りこんだ柱穴群を確認しました。また、地山上部の整地層から近世陶磁器を検出し、平場の形成は近世にも引き続きなされたことが分かりました。また連郭状に段をなす平場群の姿を明らかにした結果、伝・聞持院跡南で検出された幅３ mほどの掘り込み道に至る経路を確認しました。

聞持院は、正応３年 (1290) に虚空蔵菩薩を安置する求聞持堂が建てられ、寺名となりました。伝・聞持院跡の土塁から南方を望むと、寺院の正面を示すかのごとく、白鷹山（虚空蔵山）が真正面に見えます。　（大宮富善）



調査地位置図（伝・聞持院跡南側土塁の下に広がる平場）

発掘調査状況（東から撮影）。西端に地下水位に対応する暗渠設備がみられました。

発掘調査の平場面。約 40㎝の整地層の下から掘立柱柱穴群が見つかりました。

史跡左沢楯山城跡（あてらざわたてやまじょうあと）　－最上川に臨む山城－

大　江　町

左沢楯山城は、左沢市街地北方の稲沢山丘陵に築かれました。最上川を眼下に見下ろす山城です。寒河江の大江時茂の三男左沢元時が、正平年間に築城したと考えられています。天正 12 年から最上氏の支配下に入り、元和 8 年、最上氏の改易に伴い廃城となりました。「左沢氏とその一族、伊達氏、最上氏等の抗争を軸に展開した村山地方の中世から近世に至る動向を知る上で重要な城跡」として平成 21 年に国の史跡に指定されました。指定面積は 248,511.72㎡、周辺の城館跡では群を抜いて大きな規模を誇ります。

大江町では、現地を歩いて城の構造が体感できる整備を目指して城跡の発掘調査を進めています。現在工事を行っている第 1 期整備関係では、山頂「八幡座（はちまんざ）」や堀切周辺等の調査を行いました。その結果、山頂では櫓とみられる建物跡、堀切南側の曲輪（くるわ）では最上時代の遺物と遺構などを確認しました。

2018 ～ 19 年度は、「八幡座」周辺の城中核部西側に位置する C6・7 調査区で曲輪の全面調査を実施し、掘立柱建物跡や、大量の礫を盛って曲輪の地形を造成した跡を確認しました。

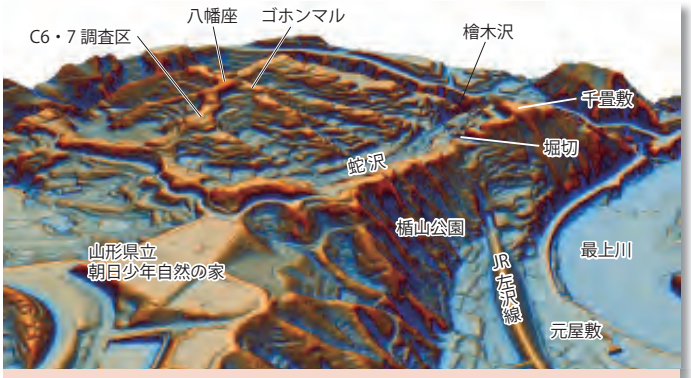
C6・7 では曲輪全体で岩盤を掘り込んだ柱穴跡が 300 基以上検出されました。２段に分かれた曲輪の上の段に多数分布し、複数の建物や柵列などを構成していたようです。城の中核部へアクセスするルートを防御するための建物や柵が作られた可能性があります。

また、今の地形に至るまでに、複数回の盛土、地形の改変が行われたことが分かりました。盛られた礫は、楯山の基盤を構成する岩盤と同質のものでした。山を削って平場を造り、そのとき生じた岩盤の礫を谷側に盛って平場を広げて、城の曲輪を造成していたとみられます。

なお、今年の調査では、城の時代の遺物は瀬戸美濃の陶器皿（15 世紀後半）、染付（16 世紀の中国産か）の破片が出土しています。

現在、散策路設置や樹木伐採など、城の構造を見学できるよう工事を進めております。整備後は、ぜひ現地を歩いてご覧ください。

（水戸部 泰子）



左沢楯山城跡の地形（陰陽図より）

C6・7 調査区全景。円形と方形の柱穴跡（建物や柵列跡）、盛土を確認することができます。

岩盤を切り盛りして造成された曲輪。山側は岩盤、谷側（写真手前）は盛土が平場を構成しています。

長岡南森遺跡（ながおかみなみもり） －大型古墳推定地（第２次調査）－　南　陽　市

長岡南森遺跡は宮内扇状地（せんじょうち）の東南部、大谷地縁辺の南森丘陵に立地する縄文～中世の遺跡です。測量調査によって遺跡の立地する南森丘陵自体が古墳である可能性が考えられたため、遺跡の性格、特に古墳かどうかに重点をおいた調査を進めています。第２次調査となる今年度は昨年発掘した第１トレンチの拡張と新たに設定した５つのトレンチで調査を実施しました。昨年は丘陵北半部の西斜面の調査でしたが、今年は東斜面に調査範囲を広げたことになります。

その結果、西斜面の第１トレンチ拡張部では、前方部から後円部の接続部にあたる「くびれ部」に相当する地形を確認しました。また、「周溝（しゅうこう）」に相当する低地が西側で立ち上がることが確認され幅 12 ～ 13m の溝跡であることがわかりました。さらに昨年検出された大型土坑の南北方向の範囲を確認しました。

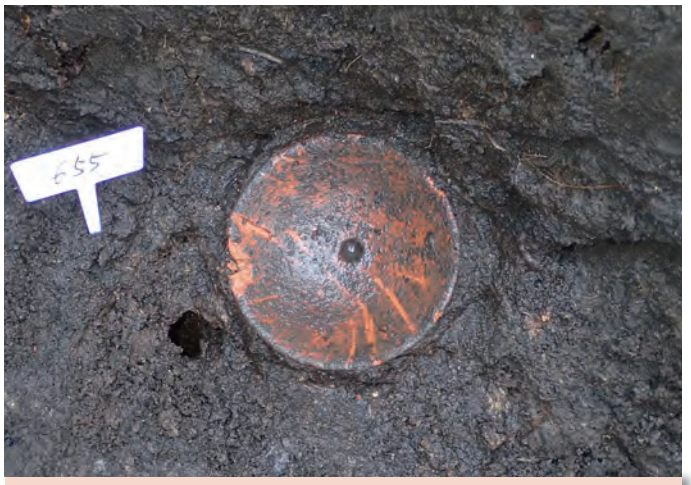
東斜面の第３トレンチでは東斜面と同様、「段築（だんちく）」に相当する段が斜面途中に２つ存在し全体で三段になっていること、二段めの平坦面や尾根斜面では盛土が行われていることが確認されました。また、丘陵の裾に沿って幅 12 ～ 13 mの浅い溝跡も確認されました。この溝跡の外側の平地では古代のピットや土坑（どこう）等の遺構が確認されました。

第３トレンチ全景（東から）

遺物は、第３トレンチから二重口縁壺（にじゅうこうえんつぼ）や器台（きだい）等の祭祀（さいし）に関わる土器が数多く出土し、旧表土層からは縄文前期の土器や石器が出土しました。また平地からは古代の土師器、須恵器が出土しました。

今回の調査で、くびれ部や周溝に相当する地形が確認され、丘陵は人工的な切土・盛土によって三段に造成されており、東西で対称的な地形を成していることが確認されました。古墳かどうかの実態解明に向けて前進したと思われます。今後さらに検証を進めていくとともに後世の改変の影響を把握するために今後も調査を継続する予定です。　（角田朋行）

第１トレンチで確認されたくびれ部



第３トレンチ出土の器台

日向洞窟遺跡（ひなたどうくつ）　－学史的遺跡の範囲拡大－

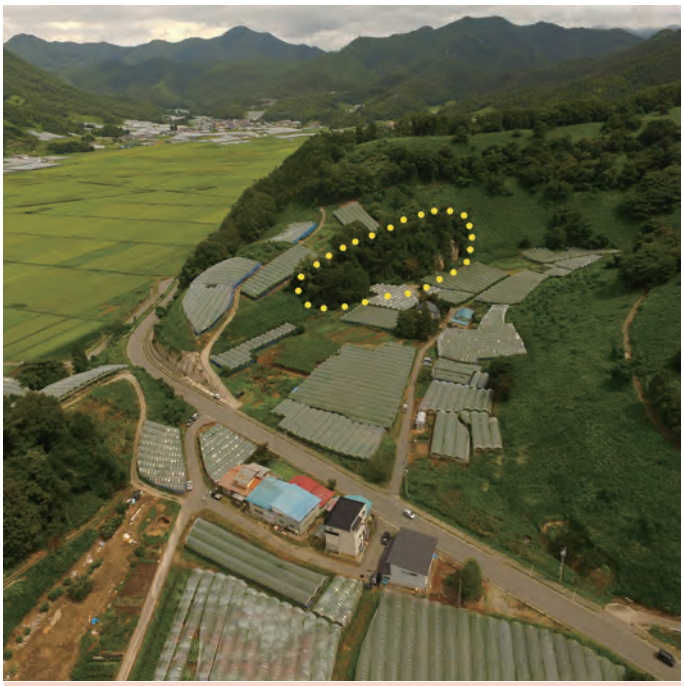
高　畠　町

日向洞窟遺跡は長峯山（大字竹森字姥ヶ作）南斜面に位置する、４ヶ所の洞窟・岩陰を中心とした縄文時代草創期（約 13,000 年前）の遺跡です。昭和 52 年に国史跡として指定された後、洞窟西側地区における町教委の調査によって、遺跡範囲が指定範囲の外側に広がる可能性が高いと指摘されてきました。今年度は第３次範囲確認調査を実施し、想定範囲の西側の状況を確認しました。

調査では出土した縄文土器の特徴から、縄文時代早期の中頃（約 7,500 年前）以降に堆積したと考えられる黒色土層とピット群を確認しました。想定範囲の南側を調査した昨年度には、縄文時代前期・中期（5,500 ～ 4,500 年前）の土器や石器が多数出土しており、縄文時代を通して日向洞窟を中心に地点を移しながら生活を営んでいたことが窺（うかが）えます。

今年の出土遺物は、植物などの繊維を粘土と一緒に混ぜて成形した土器の表面に、貝殻（かいがら）の腹縁（ふくえん）を用いて条痕（じょうこん）を施した「条痕文（じょうこんもん）系土器」の破片が出土しました。また、石器を道具として整形する際に生じる剥片が多量に出土する反面、完成品としての石器は少なく、石器製作地としての日向洞窟の姿が垣間見えます。他に、動物の皮を剥ぐ際に用いたと考えられる石匙（いしさじ）、狩猟用の石鏃（せきぞく）、２条の溝を伴う砂岩製の砥石が出土しています。

今年度調査では明確な縄文時代草創期の包含層は確認できませんでしたが、草創期以降も引続き洞窟を中心に自然環境と共生しながら、生活が営まれたことが明らかとなりました。縄文時代前期・中期が南側へ、早期が西側へ従来より範囲が広がる結果となり、洞窟西側地区まで縄文時代草創期の遺跡範囲に含まれることは確実となりました。今後、過去に町が調査した日向洞窟の総括報告書を作成していきます。　（鈴木大輔）



日向洞窟遺跡全景　写真奥が洞窟
（写真提供：大場正善　山形県埋蔵文化財センター）

検出したピット群（縄文時代早期）

出土した砂岩製の有溝砥石（ゆうこうといし）

天童古城（舞鶴山城）主郭跡
－天童を一望する山城－

天　童　市

舞鶴山は、天童市の中心市街地に位置しており、南北朝から安土桃山時代にかけて山城として利用されていました。全体規模は東西約 1km、南北 1.2km となり、山形県における中世最大級の山城になります。山頂に建つ愛宕神社は山形城主である最上義光が落城後に建立し、市指定有形文化財に指定されています。天童市教育委員会は、天童古城の遺構、遺物等の確認を行い、当時の全容を明らかにした上で保存及び活用を図るため、主郭跡の発掘調査を平成 29 年度から行っており、今年度で第 3 次となります。

今回の調査では前年度の調査に基づき、南北の繋がりを重点的に確認するために、北側の区画を整地面まで掘り下げました。さらに、西側における旧地表面（黒色土）の拡がりを面的に確認するために調査部分を拡張しました。

調査の結果、調査地である西側から、東側にある櫓台付近と同じ種類の礫や石が多く検出されたことより、主郭部にある愛宕神社周辺の岩山の形を変えるほどの大土木工事によって城を造ったことがわかりました。

北西部調査部分全景　かわらけ土器などが多数出土し、西側には礫や石が多量に含まれています。

さらに、平成 29 年度の調査により主郭の西側に検出された深い落ち込みは、遺構が南北に続かず楕円を描くように曲がっていることから、井戸遺構ではないかと推察しました。遺構の底辺部からは漆器が出土しました。

また、北西部からは平安時代末期から鎌倉時代にかけてのかわらけ土器が多数出土しました。同様の土器が山形市滝の山廃寺跡で出土していることから、かつてここに寺院があった可能性があります。

かわらけの他に、面的に精査した場所から古墳時代の須恵器片、平安時代の土師器破片、硯も出土しており、このことから山頂部が築城以前から人々が利用する場所であったことが明らかとなりました。　（菊地研次）

北西部から出土した硯（平安末～鎌倉初期）

西側から確認された井戸跡です。

駒籠楯跡（こまごめたてあと）

－古代東山道（とうさんどう）の駅家（うまや）（水駅（すいえき））跡－

大石田町

駒籠楯跡は、大石田町の北西部に位置する駒籠集落の南東部にあり、野尻川と最上川との合流点近くの右岸側段丘に立地します。標高は 66 mほどで、最上川との比高が約 12 m の段丘上にあることから、洪水等による災害を被ることはなかった場所と考えられます。

検出された遺構は掘立柱建物跡（ほったてばしらたてものあと）が中心で、他に竪穴建物跡（たてあなたてものあと）1 棟と大小の土壙（どこう）や溝跡などです。これらの中ではおびただしい数の柱穴跡群の在り方に特徴が窺われ、度重なる建て替えが行われていた様子が推測されます。

この内、大型の掘立柱建物跡は昨年度（14 次）の調査でその西端部が検出されていたもので、今回の調査ではそれらに続く一連の柱穴群が見つかりました。詳細な検討はこれからですが、1 間×7 間（南北 6 m×東西 15 m）規模で南北に廂を持つ超大型の建物跡が存在したと考えられます。また、昨年度の調査で検出された南北棟の 2 棟にも西接して直交し、「L 字型」となる建物配置の様相も官衙的な建物配置として大いに注目されてもよいものでしょう。

（阿部明彦）

駒籠楯跡第 15 次調査区全景（西から）

駒籠楯跡第 15 次調査区空中写真

駒籠楯跡第 14・15 次調査区の合成写真

桐ノ木遺跡

－古墳と中世の屋敷地で構成される複合遺跡－

米　沢　市

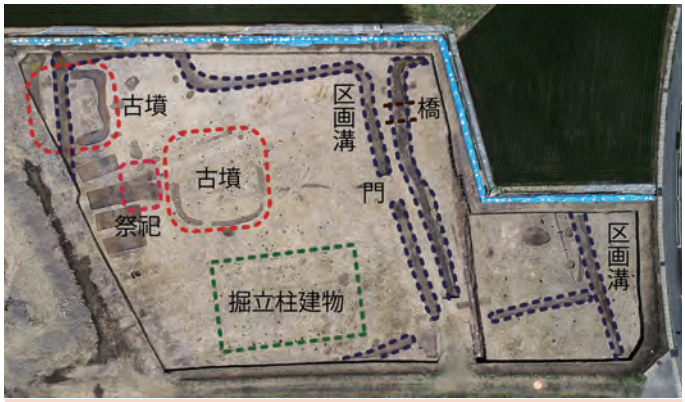
桐ノ木遺跡は、米沢市北部にある窪田地区、米沢市立窪田小学校の東隣に位置しています。本遺跡は、米沢市教育委員会で平成30年度に実施した分布調査によって新たに発見された遺跡で、古墳時代と中世の二つの時期からなる複合遺跡です。以下、今年度の調査成果について、古墳時代と中世のそれぞれの時期に分けて述べていきます。

まず、特筆すべき古墳時代の遺構・遺物として、古墳の周溝及び祭祀遺構が検出されたことと、玉類及び埴輪の可能性がある土器片が出土したことがあげられます。年代は、土器の特徴から、古墳時代後期（6世紀代）と思われます。墳丘や主体部は、後世の削平で失われており、確認することはできませんでしたが、周溝から多くの土器が出土しました。周溝の北隣にある祭祀遺構からは、意図的に割られたと思われる多くの土器や管玉・丸玉といった玉類が出土しました。また、本遺跡からは、埴輪の可能性がある土器片が出土しましたが、もし、土器片が埴輪だとしたら、置賜地方では初めての出土事例となります。

本遺跡の周辺部には、古墳時代の遺跡が多くあり、同じ窪田地区だけでも、寶領塚古墳や八幡塚古墳といった特徴的な古墳はもとより、周溝墓群として知られる北小屋屋敷遺跡や大西遺跡、集落跡の鎌倉上遺跡といった遺跡が知られています。また、本遺跡の南東約2㎞の地点には、200基以上の古墳からなる、大規模な群集墳として注目される戸塚山古墳群があります。それらのことから、本遺跡周辺には、古墳時代の置賜地方南部を治めていた有力者の存在が垣間見えます。今後は、より一層の調査・研究の進展が待たれます。

中世の遺構は、区画溝で囲まれた屋敷跡が確認されました。掘立柱建物が1棟検出され、屋敷地への出入口と門跡・橋脚跡が確認されたことは注目されます。遺物は、区画溝の中から内耳土鍋と漆塗りの椀（漆器）、火鉢の破片が出土しました。以上から、屋敷跡の年代は、内耳土鍋や漆器の特徴から類推すると、米沢一帯を伊達氏が治めていた16世紀代と考えることができます。　（佐藤智幸）

古墳の周溝。　溝が途切れる場所（古墳への通路：写真手前）から多くの土器が出土しました。



調査区全景（左が北）。　古墳が2基と区画溝で囲まれた中世の屋敷跡が確認されました。

祭祀遺構。　意図的に割られた状態の土器が数多く出土しました。玉類もここから出土しました。

めもらんだむ

山形の遺跡と日本・世界の歴史

年代	時代	県内の主な遺跡（●：令和元年度発表遺跡(主要な時代を示します)）		山形の歴史	日本の歴史	世界の歴史
BC30000年	旧石器時代	上屋地（飯豊町） 清水西（村山市） 越中山（鶴岡市） 小国東山（小国町）	弓張平B（西川町） お仲間林（西川町） 金谷原（寒河江市） 角仁山（大石田町）	山形県に人が住みつき、県内で産出する良質な頁岩で作られたナイフを使う	日本列島に人が住みつき石器を使って狩猟などをして生活する	原人 旧人 新人
BC11000年	縄文時代 草創期	●日向洞窟（高畠町） 火箱岩洞窟（高畠町） 大立洞窟（高畠町）		隆起線文土器を使う人が日向洞窟などで生活を始める	弓矢がつかわれだす 土器づくりがはじまる	
	縄文時代 早期	にひゃく寺（山形市） 北原4（村山市）	いるかい（尾花沢市） 坂ノ上（山形市）	竪穴住居による小集落が形成される	縄文海進が進む 漁撈活動が盛んになる	農耕牧畜が起こる
	縄文時代 前期	高瀬山（寒河江市） 押　出（高畠町）	小林A（東根市） 吹　浦（遊佐町）	漆を使って文様を描いた土器がつくられる	落葉広葉樹林が広がる	トルコ・世界最古の都市チャタル・ヒュヨク成立(約6000年)
	縄文時代 中期	西ノ前（舟形町） 小　反（鮭川村） 空　沢（長井市） 高瀬山（寒河江市） 花沢a（米沢市）	中川原C（新庄市） 西海渕（村山市） 西　向（鶴岡市） 熊ノ前（山形市） 山　居（西川町）	計画的な大集落があらわれる 竪穴住居に複式炉が作られる	磨石・石皿・凹石が多くなる 関東地方に貝塚があらわれる 三内丸山遺跡が繁栄する 環状集落が発達する	とうもろこし栽培のはじまり メキシコ(約5000年)
	縄文時代 後期	北原2（村山市） 高瀬山（寒河江市） 川口（村山市）	小山崎（遊佐町） かっぱ（最上町） 砂子田（天童市）	集落が減少する	配石遺構がさかんに作られる	楔形文字が使われる(約3500年) ピラミッドが作られる(約2650年) インダス文明がおこる(約2500年)
	縄文時代 晩期	宮の前（村山市） 作　野（村山市） 森の原（村山市）	下叶水（小国町） 釜淵C（真室川町） 北柳1（山形市）	中国製青銅刀がもたらされる 鳥海山が噴火する(前466年)	亀ヶ岡文化が栄える 九州で米づくりはじまる	殷王朝がおこる(約1600年) 孔子生誕(552年) 仏教成立(450年) アレクサンダー大王生誕(356年) 秦王朝がおこる(221年)
AD1年	弥生時代	上竹野（大蔵村） 百刈田（南陽市）	生石2（酒田市） 庚　壇（南陽市）	米づくりがはじまる 機織がはじまる	吉野ヶ里遺跡が繁栄する 邪馬台国が出現(230年頃)	光武帝が奴国に金印を授ける(57年) ポンペイが噴火により埋没(79年)
300年	古墳時代	畑　田（鶴岡市） 玉作2（鶴岡市） ●長岡南森（南陽市） 川前2（山形市） 今　塚（山形市） 中野目Ⅱ（山形市） ●桐ノ木（米沢市） 西沼田（天童市） 矢馳A（鶴岡市） 物見台（中山町） 南　原（高畠町） 廻り屋（白鷹町）	比丘尼平（米沢市） 天神森古墳（川西町） 稲荷森古墳（南陽市） 寶領塚古墳（米沢市） 菅沢古墳（山形市） 大之越古墳（山形市） お花山古墳群（山形市） 服部・藤冶屋敷（山形市） 梅ノ木（山形市） 太夫小屋2・3（川西町） 百刈田（南陽市） 中　里（米沢市）	鉄製農具がつかわれだす 県内最大の前方後円墳がつくられる 東北最大の円墳がつくられる 小規模な古墳群がつくられる 大規模な集落があらわれる 蜂子皇子、羽黒山・月山を開山(590年)	前方後円墳がつくられる 大和の土師器が全国に広まる 須恵器がつくられだす	ゲルマン民族大移動(375年) 南北朝時代(439年) ササン朝ペルシア全盛(531年) ムハンマド生誕(570年) 隋王朝がおこる(581年)
600年	飛鳥時代	北目古墳（高畠町） 安久津古墳群（高畠町）	羽山古墳（高畠町） 長手古墳（米沢市）	湯殿山開山(605) 出羽郡が建郡される(708年)	聖徳太子摂政となる(593年) 十七条憲法を制定(604年)	マヤ文明絶頂期(600年) 唐王朝がおこる(618年)
700年	奈良時代	二色根古墳（南陽市） 不動木（河北町） 壇山古窯跡群（川西町）	牛森古墳（米沢市） 木和田窯（米沢市） 西町田下（米沢市）	出羽柵が設けられる(709年) 出羽国が建国される(712年) 出羽柵が秋田村高清水岡に移転する(733年)	平城京に都をうつす(710年) 東大寺の大仏開眼(752年) 長岡京に都をうつす(784年)	李白・杜甫・楊貴妃らが活躍
800年	平安時代	野　田（遊佐町） ●駒籠楯跡（大石田町） ●上曽根（酒田市） 清　水（村山市） 馳上（米沢市） 八幡西（川西町） 八　反（東根市） 蝉田（村山市） 松橋（村山市） ●中関屋（新庄市） 田向2（村山市） 沼田2（村山市） 南口A（庄内町） 山　田（鶴岡市） 川前2（山形市・中山町） 小松原窯（山形市）	城輪柵（酒田市） 俵　田（酒田市） 八　森（酒田市） 泉森窯（酒田市） 山海窯跡群（酒田市） 大　坪（遊佐町） 下長橋（遊佐町） 興屋川原（鶴岡市） 的　場（天童市） 蔵増押切（天童市） 堀端・辿ノ上（長井市） 四ツ塚（河北町） 三　条（寒河江市） 落衣長者屋敷（寒河江市） 今　塚（山形市） 三本木窯（山形市）	慈恩寺建立(746年) 出羽国大地震(850年) 立石寺が開山(860年) 鳥海山が噴火する(871年) 最上郡が二分され、最上郡と村山郡になる(886年) 十和田火山の噴火により県内にも火山灰が降る(915年) 荘園の成立	坂上田村麻呂が蝦夷を平定 続日本紀ができる(797年) 胆沢城をつくる(802年) 将門・純友の乱(935・939年) 藤原氏の全盛(1016年) 前九年合戦はじまる(1051年) 後三年合戦はじまる(1083年) 中尊寺建立(1105年)	カール大帝戴冠(800年) アラビアンナイト成立 高麗王朝がおこる(918年) 宋王朝がおこる(960年) 神聖ローマ帝国の成立(962年) 十字軍の時代始まる(1096年)
1200年	鎌倉時代	八幡一（川西町） 大　楯（遊佐町） ●上の寺（寒河江市） 執行坂窯（鶴岡市）	長　表（山形市） 永源寺（天童市） 七日台（鶴岡市） 蓮華寺（鶴岡市）	斯波兼頼が山形へ入部(1356年)	鎌倉に幕府をひらく(1192年) 南北朝の動乱(1336年) 室町に幕府をひらく(1338年)	モンゴル帝国樹立(1206年) マグナカルタ制定(1215年) ダンテが活躍 百年戦争が始まる(1337年) 明王朝がおこる(1368年)
1400年	室町時代	柳沢A（鶴岡市） 小田島城（東根市） 八　反（東根市） 藤島城（鶴岡市）	高松Ⅱ（寒河江市） 蔵増押切（天童市） 安中坊（西川町） 館山北館（米沢市）			ルネサンス全盛
1500年	安土・桃山時代	●天童古城（天童市） ●左沢楯山城（大江町） ●山形城（山形市） ●谷地城（河北町）	大宝寺城（鶴岡市） 白鳥館（村山市） 米沢城（米沢市） 亀ヶ崎城（酒田市）	最上義光が最上家第11代当主となる(1570年) 義光の娘・駒姫処刑される(1595年) 出羽合戦（長谷堂合戦1600年）	種子島に鉄砲伝来(1543年) 織田信長安土城築城(1576年) 豊臣秀吉の天下統一(1590年) 関ヶ原の戦い(1600年)	マゼラン世界一周(1522年) ガリレオが活躍(1564年) 東インド会社設立(1602年)
1600年	江戸時代	新庄城（新庄市） ●山形城三の丸（山形市） 羽州街道（上山市） 渋　江（山形市） 八幡西（川西町）	鶴ヶ岡城（鶴岡市） 三　条（寒河江市） 南　台（長井市） 飛泉寺跡（小国町） 坂ノ上（山形市）	最上義光没する(1614年) 最上氏改易(1622年) 上杉鷹山、米沢藩藩主に(1767年)	徳川家康江戸に幕府をひらく(1603年)	清王朝がおこる(1636年) アメリカ独立(1776年) フランス革命(1789年) ナポレオン、フランス皇帝に即位(1804年) リンカーンが活躍(1861年)